

SDGsの視点に基づく探究学習の取り組み

公立高等学校普通科全生徒を対象とした「グローバル型」事業における実践

岩見 理華
兵庫県立兵庫高等学校

1. 社会的意義

ESDは、学習指導要領においてもその観点盛り込まれている。2022年度から実施される高等学校学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」という言葉が初めて盛り込まれた。ESDでは、関連する様々な分野を「持続可能な社会の構築」から繋げ、総合的に取り組むことが必要である。課題についての知識を深め、異なる分野や世界観を繋げる多角的思考を育成するには教科横断的な指導が有効であり、課題の発見・解決に向けて学習者が主体的・協働的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の充実と、そうした学習・指導方法を教育内容と関連付けて示すための在り方、育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の改善が求められている。

本実践の社会的意義は、社会や世界の状況を幅広く視野に入れた社会に開かれたカリキュラム・マネジメントが強調されている学習指導要領の方向性も踏まえ、地域と協働して地域課題の解決を目指した学習者の主体的な探究学習を推進していることにある。

2. 目的

本実践の目的は、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に指定された兵庫県神戸市内の公立高等学校普通科全生徒を対象とした「総合的な探究の時間」を実践し、その成果と課題について明らかにすることである。

学校が所在する神戸市は、人口減少と超高齢化が解決すべき喫緊の課題である。本事業では、次世代を担う若者が「神戸に住みたい」と強く感じるようなまちづくりを行うには何が必要かということについて、高校生自らが課題を発見し、考察し、提案するという一連のプロセスを大学や地域の行政機関等外部団体と共に教育活動として行い、グローバルで複眼的な視点を持ち地域に根ざした人材を育てることを目的としている。

同校の「総合的な探究の時間」の目標は、①SDGsのテーマに基づく教科横断的・総合的な学習を通じて知識を深め、幅広い視野を養

い、②地域の課題を自分事として捉え、その解決に向けて他者と協働する力を育成することである。そして、③学習の成果をスライドやポスターにまとめて発表することを通してICT活用能力を高めるとともに表現力を養う。

3. 実践の概要

2年生244名の生徒を、原則4人1組の69のグループに編成し、8つの活動教室にまとめた。研究テーマは、SDGs17の目標に基づく10の分野（表1）の中から設定させた。研究を進めるにあたっては、大学教員や神戸市役所等の支援を得た。

表1 SDGsに基づく研究分野

A：貧困と飢餓	B：健康と福祉	C：教育とジェンダー平等	D：水	E：エネルギー
F：持続可能な経済	G：まちづくり	H：自然環境	I：平和	J：パートナーシップ

調査活動には、兵庫県の県立学校学びのイノベーション推進事業で提供されたタブレット端末や教育用クラウドサービスを活用した。学習の成果は、テーマ設定発表会、中間発表会（スライド）、完成発表会（ポスター）で発信・共有した。

4. 成果と課題

アンケートの結果から、課題探究学習が学習者の知識の獲得に寄与するだけでなく、情報収集能力や主体性、協働力、論理的思考力や批判的思考力の涵養にも役立つことがわかった。これらの能力は、決して短期間にそして観念的に育成できるものではなく、小学校や中学校段階から調査活動や発表活動に活かす取組を行うことで、段階的にリサーチリテラシーの育成を図ることが必要である。研究時間の確保や実験設備およびインターネット環境など物理的な制約に加え、教員の指導力の格差などの課題がある。各学校においてリサーチリテラシー育成プログラムの充実を図り、体系的・継続的な指導が行えるように校内研究体制を整備していく必要がある。